

国際的な環境で実力を発揮できる人材について

(第3回 科学技術関係人材専門調査会)

本田技研工業(株)取締役相談役
吉野浩行

1. 日本の大学(院)の強化すべき点について

(1) 米国の大学の経験者の意見

- ~ 日本の大学との比較において、米国の大学の優れた特徴 ~
目的を明確にした実践的な教育(PBL)
学際性・異質なものの融合
自由で流動的な研究環境
院生は、一人前の扱い
厳しい競争環境

(2) 日本企業の若手研究者の意見

- ~ 入社後数年の経験を踏まえ、大学(院)教育で強化すべき点 ~
目的を明確にした実践的な教育
語学教育
物理、数学、文科系科目も含めた幅広い基礎教育
コミュニケーションスキル
「人」としての教育

2. Honda の視点での PBL の実例(実際のビジネスの歴史の教育版)

- (1) Formula SAE
- (2) ロボコン

3. なぜ、海外の研究者、技術者と伍してやってこれたか

- ・語学、ディベート力、論理性、個性の発揮といった点で劣るものの、企業の中で「PBL」で鍛えられ、現場の「モノ」ベースで対等にコミュニケーションできたため。
- ・この日本の「モノづくり」の強みをさらに強化すると同時に、上記の弱点を克服していくための教育が必要。